



竹田 英司

「エディ先生（私のニックネーム）、僕だっで一緒ですよ。どんなに頑張っても練習しても、試合に出られなかったらそれで終わり。それでも準備するんです。それが仕事ですから。僕が試合に出られたのも数えるほど。この前（5月）の全日本男女選抜大会（黒鷲旗）で、僕は初めてJTのユニホームを着られたんです。腐ったら負けですよ」

◎ 最大限の努力 Vの道

5月11日にあったファン感謝デー後の納会。私が「マネジャーの仕事で自分の唯一の取りえである英語を使う場面は数えるほどしかない。自分よりこの仕事にふさわしい有能な人に代わってもらった方がいいと思う」と愚痴をこぼすと、親子ほど年の離れたロジャース海選手から説教された。

ずっと主力として歩んできたロジャース選手にとって、試合に出られないのはおそらく人生初。耐え難いことに違いない。そんなロジャース選手の言葉だからこそ重く、私の心に突き刺さった。

ロジャース選手の見えた目はファッション雑誌からそのまま飛び出してきたかのようで、普段の苦悩はみじんも感じさせない。

彼と私の合言葉は「Maximum Effort（最大限の努力）」。これから一年間、選手とスタッフが最大限の努力をすれば、おのずとJTサンダーズが令和初のVリーグ王者になっていくはずだ。練習や試合会場でロジャース選手を見掛けたら、われわれの合言葉「マキシマム・エフォート、カイト」と声援を送っていただきたい。

（JTマネジャー）

黒鷲旗で初めてJTサンダーズのユニホームを着てプレーするロジャース選手（右端）

